

新宿区教育委員会会議録

平成26年第5回臨時会

平成26年7月18日

新宿区教育委員会

平成26年第5回新宿区教育委員会臨時会

日 時 平成26年7月18日(金)

開会 午後 1時29分

閉会 午後 4時14分

場 所 新宿区役所5階大会議室

出席者

新宿区教育委員会

委 員 長	白 井 裕 子	委員長職務代理者	羽 原 清 雅
委 員	菊 池 俊 之	委 員	松 尾 厚
委 員	今 野 雅 裕	教 育 長	酒 井 敏 男

説明のため出席した者の職氏名

次 長	中 澤 良 行	教育調整課長	木 城 正 雄
教育指導課長	横 溝 宇 人	審議委員会委員	小 林 力
審議委員会委員	中 野 有 一 郎	算数科調査委員会 委 員 長	小 坂 和 弘
生活科調査委員会 委 員 長	清 水 仁	家庭科調査委員会 委 員 長	堀 江 昌 代
体育科調査委員会 委 員 長	中 西 憲 次		

書記

教育調整課調整主査	高 橋 美 香	教育調整課管理係	高 橋 和 孝
-----------	---------	----------	---------

議事日程

協 議

- 1 平成27年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について（教育指導課長）

◎ 開 会

○白井委員長 ただいまから平成26年新宿区教育委員会第5回臨時会を開会します。

本日の会議には全員が出席しておりますので、定足数を満たしております。

本日の会議録の署名者は、羽原委員にお願いいたします。

◎ 協議1 平成27年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について

○白井委員長 本日、議事はございません。

前回に引き続き、「協議1 平成27年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

本日は、教育委員会会議規則第15条の規定に基づき、平成27年度新宿区立小学校教科用図書審議委員会の委員と、平成27年度新宿区立小学校教科用図書調査委員会の各教科委員長に出席していただいております。

本日の協議の進め方ですが、専門的に調査検討を行った調査委員会の各教科委員長から、種目ごとに、指導要領の中での目標、教科の特性等について、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて説明を受け、質疑を行います。

その後、本日出席の審議委員会委員から種目ごとに審議委員会における審議の内容等について説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行います。

本日は、算数、生活、家庭、保健の各種目について、協議を行います。

なお、本日協議する各種目の教科用図書については、8月1日に開催する予定の教育委員会定例会で、採択を行うことを予定しています。

それでは、算数について、指導要領の中での目標、教科の特性等と調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○算数科調査委員会委員長 算数科調査委員長です。

まず、算数科の目標についてお話しいたします。算数科の目標は、「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる」であります。

今回の学習指導要領の改訂の要点としては、3点ございます。1点目は、基礎的・基本的

な知識・技能の確実な定着のため、指導内容を一部重複させて、学年間での反復による教育課程が編成できるようになったことです。2つ目は、国際的な通用性や小・中学校の学習の円滑な接続等の観点から、図形の合同、拡大図や縮図、数量関係での文字式など、指導内容が充実されたことです。3点目は、数量や図形についての知識及び技能を確実に身につけたり、数学的な思考力・表現力を高めたり、算数を学ぶことの意義や有効性を実感したりする学習を充実するため、各学年の内容に算数的活動が位置づけられたことです。

教科の特性としましては、系統性に基づいた積み重ねをしていく学習内容があること、いわゆる学んだことを活用していく教科であるということが言えます。また、体験的な活動を通して、ここでは算数的活動と強調されてございますが、算数的活動を通じた主体的な学習を問題解決学習という流れの中で学ばせていくという特性がございます。

続きまして、調査委員会の中での審議の内容についてお話ししてまいります。まず、評価をするに当たって、委員会の中では、問題解決学習をスムーズに行えるようにするために、学習の過程を教師だけでなく、児童みずからが、また家庭においては保護者も確認できるとよい。教科書の行間を読まなければならないものより、ある程度スモールステップになっているものが望ましい。また、どの教科書も検定を受け、よい教科書であるという前提に立って、既習事項を生かし学ぶという教科の特性を児童がつかみやすいものを積極的に採用したい。また、学年別に見た際の評価が、低学年では高いとか、高学年では高いといった傾向のある教科書会社でなく、発達段階に応じて全ての学年において評価していこう、そのような前提に立って評価してまいりました。

お手元でございます調査報告に基づいて、各社の特徴などをお話ししたいと思います。まず東京書籍でございます。この教科書は、全ての学年において評価が高く、総合的なバランスにすぐれているという意見が出されました。個に応じた指導を充実できる構成になっており、問題解決の過程をスモールステップで示すなど、児童みずからが振り返りながら学べるようになっており、家庭においても保護者が容易に学び方を把握することができるといった特徴があるという意見がございました。児童みずからが既習事項を生かして学んでいくという教科の特性をつかみやすく、反復学習を効果的に進めることができる教科書という意見が多く出されました。

続きまして、大日本図書です。この教科書については、主な特徴として、児童みずからが既習事項を大切に学習の進め方をしていくことができるという意見が多くありました。

次に、学校図書です。この教科書では、問題の種別やヒントとなる支援等が習熟度に応じ

た構成になっているという特徴が見られました。

続きまして、教育出版です。問題解決の学習の過程を活動の流れとして、児童につかませる工夫が見られる。また、既習事項を生かすことを重視し、反復練習を充実させているという特徴がございます。

啓林館の教科書は、操作活動をビジュアルに示すなどして、問題解決の過程を児童につかませる工夫がある。また、補充的な問題と発展的な問題との区分を明確にする等、習熟度に応じての個別指導への配慮があるという意見がありました。

最後に、日本文教出版。この教科書は、多様な数学的な表現方法を相互に関連づけて、思考や説明に用いさせる工夫が見られるという特徴が上げられました。

内容については以上のおおりでございますが、最終的な評価をしていくに当たり、問題解決学習をスムーズに行えるようにするには、学習過程を教師だけではなく児童みずからが、また家庭においては保護者も確認できる。行間を読まなければならないものより、ある程度スモールステップに内容があらわされているものが望ましい。また、どの教科書もよい教科書であるのですが、既習事項を生かし学ぶという教科の特性がつかみやすいものには積極的な評価を行ってまいりました。

以上で算数科の調査報告を終わります。

○白井委員長 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたらどうぞ。

○松尾委員 詳しい御説明、ありがとうございました。

一つお伺いしたいのは、この算数の教科書を実際に授業で使用するに当たって、問題解決学習が重視されているということでもありますけれども、その観点から、どういう使い方を実際にしていくのかということについて御説明いただけますでしょうか。

○算数科調査委員会委員長 ただいまの質問ですけれども、問題解決学習の進め方について、教科書を用いて授業を進めていく場面もございますが、主に、問題を提示して、問題をつかんでいく。例えば、ただいまの評価の高かった東書の教科書でいいますと、お手元に東書の教科書、6年生の22ページ・23ページをお開きいただければと思います。具体的には、こちらの23ページのところに、円の面積の求め方を考えようということで、図も出されてございますが、教科書を見ながら進めていくというよりは、問題を黒板等に提示しまして、その解決をしていくヒント等を与えながら、特に新宿では習熟度別の学習等を行っておりますので、進んでいるお子さん、また少し算数が苦手であったりしておくれているお子さん、その個に

応じたヒントを出しながら問題を解かせて解決していくといった学習の流れをとってごさいます。

○松尾委員 そうしますと、教室で教科書を開く場面もあるでしょうけれども、問題解決学習の流れにおいては、例えば新宿区の場合、実物投影機とプロジェクターがごさいますので、そこに映して、それをもとに考えていく。ただ、その流れはおおむね教科書の流れで進めていくということですね。そうしますと、例えば学校を休んだお子さんがいた場合に、自宅で学習する際に、本当に十分かどうかはなかなか難しいかもしれませんが、教科書を見ることによってその部分の補完をすることができる。そういう理解で合っていますでしょうか。

○算数科調査委員会委員長 今、委員の御指摘のとおりでございます。問題を解決していくときに必要となっている事項、そのところを、もし休んでいたり、また授業中にちょっと聞き漏らしたようなことがあった場合にも、教科書に戻って、そのポイントを確かめることができる、そのように考えます。

○松尾委員 それから、習熟度別のクラスもあるということで、算数については、得意なお子さんもいれば苦手なお子さんもいて、でも大多数のお子さんは恐らく単元によって得意になったりちょっと苦手になったりというお子さんが多いのではないかと想像しますけれども、それぞれのそういう子どもの得意不得意の違いによって、その教科書も向き不向きがもしかしたらあるかもしれないという感じはするのですけれども、そういう見方で、例えば得意な子にはこういう教科書が向いているとか、苦手な子にはこういう教科書が向いているとか、これは全てを兼ね備えたい教科書だとか、そういう見方で見ると、今回の調査ではいかがでしたか。

○算数科調査委員会委員長 例えば、問題解決学習の問題の与え方でございますけれども、進んでいるお子さんにとっては、ヒントのないものに挑戦していくといった観点でいいますと、大日本図書の教科書がごさいます。大日本図書の同じく6年生の教科書をお手元に御用意いただけますか。その教科書の60ページ、そこに円の面積について調べようといった課題が与えられていまして、そこに三角印の1といった形で、次の2人の考え方を説明しましょうという設問がごさいます。でも、学校の中で授業を進めていく場合には、このヒントを伏せて、一番上の円の面積は、その円の半径を1辺とする正方形の面積の約何倍か、下の図を見て見当をつけましょうといった問題を与えて、すぐに回答できるといった力のあるお子さんにはこの与え方がふさわしい。しかし、どこに着眼点を持って問題を解決していくか、ちょっと

苦手なお子さんにとっては、その三角印で示された設問が必要になってくる。そのように、個に応じた習熟度の差によって設問の与え方を工夫したりとか、そういう使い方ができていく。そういった点で見ますと、大日本図書の教科書などは、高度に進んでいるお子さん向けにつくっていて、観点を徐々に与えていくというつくりになってございます。

また、先ほどの東京書籍のほうを見ていただくと、先ほどの6年生の教科書の23ページになりますが、最初の問題の与え方というところに「しんじ」、「みほ」という吹き出しがあったりして、最初から着眼点というか、問題のヒントとなるような吹き出し等を与えたりしている。そういった教科書ですと、少しおくらせているお子さんも、後々教科書がよくわからなくなったといった場面で振り返ったときに、使いやすい教科書であると解釈しております。

以上です。

○白井委員長 ほかに。

○羽原委員 現場的にいうと、東書が非常に高い評価であったと。普通はこれまで使っていた延長線上の教科書のほうが現場的にいうと使いやすいという傾向があるかと思うのですが、それがかなりの格差がついて、東書への切りかえと。このイメージとして、根本的な理由、選択を切りかえるような結果になった原因というか、どう見たらいいかを教えてください。

○算数科調査委員会委員長 先ほど冒頭でもお話いたしました、今回の教科書を評価するに当たって、問題解決学習をスムーズに行えるようにするために、一番には、その学習過程を子ども自身、児童みずからがつかみやすい。それから、教師自身もつかみやすくないといけない。現在、新宿区では、若手教員の増加に伴って、算数の学習の進め方といったところも、全教科を教えていくといったときに、算数科を特化して教えていくときに、ぱっと教科書を見たときにこの学習の進め方の流れがつかみやすいといったところが高評価のポイントになってございます。また、先ほどほかの委員からもございましたが、お休みしたり、ちょっと振り返って学習したりするときに、見返して使いやすい。また、家庭での学習を考えたときにも、保護者が、これがポイントだなと把握して、子どもに家庭でも指導しやすい。そういったところがポイントになったかと思えます。

以上です。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問は。

○松尾委員 もう1点、算数というのは、恐らく嫌いなお子さんにとっては、本当に勉強したくないということもあるのではないかなと思うんですけども、そういうお子さん、あるいは逆に得意なお子さんにとっては、例えば計算練習のようなことはすぐできてしまうから余

りおもしろくないと感じるお子さんもいるのではないかと思うんです。そういったときに、算数の指導をするに当たって、いろいろなお子さんがいらっしゃる中で、皆さんに関心を持ってもらって取り組もうという意欲を持たせるということはとても大事だと思うんですけれども、そういう見方では今回の教科書調査はいかがでしたか。

○算数科調査委員会委員長 今回も話題になりまして、算数的活動を取り入れて、活動に合わせて算数の内容、概念とか原理とか、そういったところをあわせてつかませていくということをととても大事にしていこうという議論がなされました。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問はございますか。

○教育長 先ほどの説明の中で、家庭においても保護者が使いやすいという御説明があったと思うんですけれども、具体的に、どこをどう見ると、親はなるほどと思うのですか。

○算数科調査委員会委員長 先ほどの東京書籍の6年生、22ページ・23ページあたりを見ていただきますと、円の面積の公式を導いていく際に、数学的な原理にのっとり、矩形といった多角形等の面積を求める公式から円の面積に近似していくといったプロセスを踏んでまいります。そういった点で、円の面積を求めていくときに、今、23ページに解決すべき問題が載ってございますが、その左側に長方形やひし形や三角形、これまでの学習した面積の求め方、これを振り返る場面がございます。1ページめくっていただきますと、本題に入って、解決の仕方等がございますが、24ページ・25ページのあたりで、このページを順番に追っていても、その問題をどう解決させていったらいいかという流れがつかみやすいこと。また、戻ってしまって申しわけございませんが、22ページの既習事項を確認するところに、そのページの右下あたりにリターンマークのような、戻る、バックするような記号がついていて、例えば24、三角形や四角形の面積公式とか、23、円周の長さといった感じで、巻末のほうに使います原理、その教科書の253ページをお開きいただけますか。そこに、振り返って使える、活用させていきたい原理等が説明されている。そういったところのつながりを見やすいといった点で、家庭でも、そのことはもちろん保護者会等で保護者にもお伝えして、こういった形で家庭でも学習を振り返ってくださいといったことをお伝えしながら使っていく。そういう点で便利だということでございます。

○教育長 ありがとうございます。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問はありますか。

よろしいでしょうか。

では、ほかに御意見、御質問がなければ、算数科調査委員長、御苦労さまでした。

次に、生活について、指導要領の中での目標、教科の特性等と調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○生活科調査委員会委員長 初めに、生活科の目標について御説明いたします。生活科の目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」というものでございます。つまり、具体的な活動や経験を通して、自立への基礎を養うということになります。

今回、生活科の改訂の要点については5点ございます。1点目は、気づきの明確化と気づきの質を高める学習活動の充実」ということでございます。全ての内容において、具体的な学習活動や学習対象が示されました。また、関心を持つこと、気づくこと、わかること、考えることなども明確に示されております。低学年の発達特性に応じ、見つける、比べる、例えるなどの多様な学習活動を行うことも例として示されております。

2点目は、伝え合い交流する活動の充実でございます。生活科における具体的な活動や体験の様子などを身近な人々と伝え合う活動を行うことで、かかわることの楽しさがわかり、多くの人と進んで交流していこうとする子どもの姿を目指しております。

3点目は、自然の不思議さやおもしろさを実感する指導の充実ということでございます。科学的な見方・考え方の基礎を養うという観点から、自然の不思議さやおもしろさを実感させる学習活動として、身近な自然や物を使って遊んだり、遊びに使う物を工夫してつくること、自然の不思議さに気づくことが明示されております。

4点目は、安全教育や生命に関する教育の充実でございます。これまでも安全教育や生命に関する教育は取り扱ってまいりました。しかし、児童を取り巻く社会の急激な変化に対応するという視点から、安全教育や生命に関する教育を一層重視しております。例えば、内容（1）には、その安全を守っている人々を加えたり、内容（7）の取り扱いにおいては「継続的な飼育・栽培を行うようにすること」という文言を加えております。

最後に5点目は、幼児教育及び他教科との接続でございます。幼児教育との接続の観点から、第1学年入学当初に学校生活への適応が図られるよう、合科的な指導を行うスタートカリキュラムとして改善しております。また、第3学年以降の社会科・理科へのつながりを視野に入れた内容（3）地域で働いている人を対象とすること、内容（4）公共物や公共施設を利用すること、内容（6）自然の不思議さに気づくこと等の内容の明示が行われております。

次に、教科の特性について御説明させていただきます。教科の特性としましては、次の5点がございます。1点目は、児童の身近な生活圏を活動や体験の場、対象としているということでございます。2点目は、児童が身近な人や社会、自然と直接かかわる活動を重視しているということでございます。3点目は、児童の思いや願いを育み、意欲や主体性を高める学習過程で行うということでございます。4点目は、働きかける対象についての気づきとともに、自分自身に気づくことができるようにするということでございます。最後に5点目は、児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげていくということでございます。

調査内容について御説明いたします。生活科の目標、教科の特性、それからただいま御説明いたしました、改訂の際に示された生活科における改善点の趣旨を踏まえ、新宿区の児童にとって自立の基礎を養うという教科の目標にかなう教科書、それから若手教員が増加している現状の中で、教員にとっても生活科の授業を指導する際に適切な教科書という視点、それから教科調査委員会のほうで出されました内容の選択、構成・分量、表記・表現、使用上の便宜等の観点から、全ての教科書について調査を行いました。

主な議論といたしましては、まず自立の基礎を養うという生活科の目標を達成する授業を行う際に使用する教科書として適切であるかということについて議論をいたしました。もちろん、検定を通過している教科書でございますので、全て適切ではございませんけれども、その中で、私たちが子どもたちと一緒に生活科の授業を行う際に、どの教科書を使うと使いやすいか、どの教科書を使うと子どもたちの理解が深まっていくかということを考えました。

その中で出た議論でございますが、まず学習上の自立という観点から、自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる学習活動を進んで行うような教材が入っているか、身近な家族や地域、公共施設、動物や植物、安全に関する内容が入っているかということについて調査をいたしました。さらに、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現する例が示されているか、生活上の自立という観点から、生活上必要な習慣や技能を身につける例が示されているか、身近な人々、社会や自然と適切にかかわる例が示されているか、精神的な自立という面から、自分のよさや可能性に気づき、意欲や自信を持つ姿があらわされているかどうか、現在及び将来における自分自身のあり方に夢や希望を持ち、前向きに生活していく例が示されているかという点について調査を行い、議論を行いました。

その中で、生活科については教科書が多かったわけですが、幾つか、この教科書というところが出てまいりました。例えば、東京書籍の教科書でございますが、スタートカリキュラムという意味で、「すたあと ぶっく」という単元がございまして、その中で幼稚

園・保育園・小学校の交流、新しい学校生活への興味を高める内容が入り、有効であるといった評価がありました。

また、同じく日本文教出版の「わたしとせいかつ」においては、「いちねんせいになったら」という単元がございまして、やはり幼・保・小とのつながりを感じさせ、小学校生活への期待や適応が図られるよう工夫されているという意見が出されました。

また、気づきの質を高めるという点でございませけれども、同じく東京書籍では、何を誰にどのように伝えるのかを丁寧に扱っていてわかりやすい、言語活動の充実につながる工夫があるという意見が出されました。

同じく日本文教出版では、さらに第3学年以降の総合的な学習でも活用できるような思考ツールや問題解決スキルを身につけさせるような工夫が例示されているという意見が出されました。

表記・表現のところでございませけれども、東京書籍におきましては、「ほんとうのおおきさずかん」というページがございまして、自然への興味・関心を高め、これを見つけてみたいという意欲を子どもたちに喚起するような工夫があるという意見が出されました。また、種、芽、花、実というものが重なるのページになっておりまして、児童の興味をひき、活用しやすいのではないかという意見。さらに、イラストや写真の子どもの表情が豊かであり、児童が親しみやすい、また、調べてみたい、これを見つけてみたいといった意欲が高まるのではないかといった意見が出されました。

日本文教出版でございませけれども、表記・表現につきましては、学習カードの例示が大変豊富で、若手の教員に対しても、記入の仕方やカードづくりのヒントになるのではないか、また、教師が評価しているページがございませが、その例が示されていて参考になるという意見も出されました。

それから、実際に新宿区で使う際にどういう便利な点があるかということで議論がなされましたが、東京書籍におかれましては、巻末に「べんりてちょう」「ポケットずかん」というものがついておりまして、学習方法がわかりやすくまとめられている。野外活動の際に携帯するのに便利である。また、「やくそく」「手をあらおう、うがいをしよう」など、安全、衛生面での注意があり、とてもわかりやすい。

それから、こちらは東京書籍、日本文教出版ともに共通しているのですけれども、見開き1ページで、学習の見通しが立てやすい構成になっており、子どもも教員も学習の見通しが立てやすい、どのような学習をしたらいいのか等がわかりやすいという意見が出ておりまし

た。

以上でございます。

○**白井委員長** 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたらどうぞ。

○**今野委員** 生活科の場合には、お話にありましたように、具体的な子どもたちの活動の中でいろいろ理解していくということがあります。そして、教科書の中でも虫などが結構たくさん出てきますけれども、新宿だと、生きて見たり触ったりということがなかなかできにくい環境ではないかと思うのですが、学校ではそのあたりは具体的にはどのような手だてをされていますか。

○**生活科調査委員会委員長** 確かに、新宿の地域というのは住宅街、また高層ビル街というところがあるのでございますけれども、よくよく見ますと、例えば西新宿小学校の近くであれば中央公園、または四谷地区であれば新宿御苑等、近くに大きな公園もございます。そういうところに探検に出かけて見てくる、または地域で例えばカブトムシを飼育されている方の協力を得ながら一緒に地域活動を行う、または中央公園の中にビオトープがございますが、そこでザリガニを捕まえてきて飼育するといった工夫がなされております。

○**白井委員長** ほかに御意見、御質問はございますか。

○**松尾委員** 安全面のことですけれども、今、東京書籍の上巻の76ページのところに「おもちゃずかん」というのがありまして、ここで工作をするようになっています。「117ページも見てね」と書いてあって、一番後ろで、ここで道具を使おうということで、道具を正しく安全に使おうという説明が入っていますけれども、これは76ページの「おもちゃずかん」のところには「117ページも見てね」としか書いていなくて、その右に「道具を正しく安全に使おう」と書いてあるのですけれども、117ページを開けば確かに書いてありますけれども、この76ページのところだけ見ると、ちょっと安全性への喚起が十分でないような気がするのですが、こういった点についてはいかがお考えでしょうか。

○**生活科調査委員会委員長** 本区には実物投影機がございます。こちらの「おもちゃずかん」のところを児童が広げながら、どのようなものをつくるのか、どのようにつくるのかをイメージしていく中で、教師のほうでこちらの117ページの「道具を使おう」を実物投影機で示しながら説明する、また実際に道具を実物投影機で示して、このように使うんだよということを示すことができると考えております。

○**松尾委員** では、そういった安全面の配慮については、個々の先生方に十分に周知していただくということでございますね。わかりました。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問はありますか。

○菊池委員 先ほどの今野委員の質問とほぼ同じだと思うのですが、実は現代社会の人々は、都会に住んでいる人たちは、虫を異様に怖がる。例えば、ゴキブリを見るとパニックになる人たちもいると思うのですが、それはやはり子どものときに、我々のときはもう日常的にハエはいたし、蚊は飛んでいる。そういうのが日常であって、ダンゴムシはよく出てきて、ダンゴムシは余り害がないのでいいのですが、そういう虫と低学年のときにたくさん接する機会が、あるいは植物も含めて、子どものときに自然とたくさん接することが大事なのかなと思ひまして、先ほどお答えになっていたのですが、そういう観点で一番すぐれている教科書とか、そういう考え方はおありだったのでしょうか。

○生活科調査委員会委員長 おっしゃるとおりだと思います。経験が少ないと、子どもたちというのはどうしても拒否反応が出てしまうもので、新しいことをなかなかやりたがらないという傾向もございます。先ほど改訂の趣旨を御説明させていただきましたが、意外と、飼ってすぐに飼育をやめてしまったりという傾向が今まであったんです。ですから、それを長く飼うことによって、生命尊重もそうなんですけれども、その生き物に対する愛着を深めるということは大事だと思われまます。また、そのためには、どのようにして飼ったらいいのかということ調べて、そしてどのような餌を与えたらいいのかということ調べるなど、そういう調査活動をしながら、愛着が湧くように育てていくということが必要かと思ひます。

そういう意味で、教科書の中では、例えば東京書籍の上巻でいいますと、「いきものずかん」56ページ・57ページをおあげいただけますか。図鑑等で子どもたちが飼い方を調べて、このような環境の中でのなるべく長く飼育する経験をすることが、昆虫、飼っているものに対して愛着を生み、生き物に対しての拒否感というものがなくなっていくのではないかと考えております。

○菊池委員 ありがとうございます。私は、それは多分環境問題とか、そういうことにもつながっていくので、非常に大事なのかなと思っているものですから、ありがとうございます。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問はございますか。

○松尾委員 せっかくの機会なのでちょっとお伺いしたいのですが、今の「いきものずかん」のページで、左のほうにショウリョウバッタと書いてありまして、同じ飼い方で飼えるトノサマバッタ、コバネイナゴとあります。けれども、その右側にオンブバッタとコオロギとあるのですが、オンブバッタというのは、おんぶしているような状態にあるものを指すと私は思ひまして、つまりバッタの種類を指すものではないように思ひていたのですが、こ

れはショウリョウバッタとオンブバッタとコオロギが四角で囲われていますが、オンブバッタというのは、そういう種類のバッタがいるということですか。

○生活科調査委員会委員長 すみません、理科専門ではないもので、もし違うお答えでしたらまた訂正させていただきたいと思いますが、ショウリョウバッタとオンブバッタとは種類が違うようで、ショウリョウバッタのほうがサイズが大きいもので、オンブバッタのほうはサイズが小さい、別の種類のもののございます。これは、啓林館に「せいかつ たんけんブック」というものがついているのですが、そちらの25ページをごらんいただけますか。こちらにも示されているように、種類は違うようございます。

○白井委員長 勉強になりました。

○松尾委員 先ほどビオトープでザリガニを捕まえて持って帰るとおっしゃいましたけれども、それは持って帰っていいのでしょうか。

○生活科調査委員会委員長 アメリカザリガニですけれども、ビオトープは自然を復活させようというプロジェクトございまして、その中に、アメリカザリガニというのは外来種ございますので、本来はいてはいけない種類なんです。ですから、子どもたちもザリガニ釣りをさせていただくのですけれども、観察した後に、かわいそうだからそちらの池に戻そうかという話にもなってくるのですけれども、ビオトープの会の方からは、「ビオトープを守るためにとってもらったので、返すことはしないでください」と固くお断りされております。

○松尾委員 わかりました。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問は。

○教育長 先ほど説明の中に花とか種とかというので工夫があるようなお話がありましたが、例えば具体的にどこなのか、教えていただけますか。

○生活科調査委員会委員長 東京書籍の上巻24ページ～31ページのところをごらんください。ページのサイズが25ページのところは切ってございまして、24ページと26ページを重ねますと種、24ページのところには花が咲いている様子が出ているわけですけれども、重ねますと双葉の状態があらわれ、さらにそこに28ページを重ねますと、その後成長し、つぼみの状態、それから最後、30ページは実になった状態という形で、先ほども申しました長い期間栽培をするという意味から、どのように変化していくかということがわかる仕組みになっております。

また、東京書籍下巻の11ページをごらんください。同じような形で、ここは野菜を育てようという単元ございまして、トマト、キュウリ等の種、それから苗のところから花が咲い

た様子、そして実がなった様子という形で、このように、パラパラ漫画ではございませんけれども、変化がわかるように工夫されております。

○**白井委員長** ほかに御意見、御質問はありますか。ほかに御意見、御質問がなければ、質疑応答を終了させていただきます。

生活科調査委員長、お疲れさまでした。ありがとうございました。

では次に、家庭科に移ります。家庭科について、指導要領の中での目標、教科の特性等と調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○**家庭科調査委員会委員長** 家庭科の目標といたしましては、「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに家庭生活を大切にすることを心がけ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる」とあります。

教科の特性といたしましては、実践的・体験的活動や問題解決的な活動を通して学んでいくという点がございます。

調査委員会の調査では、まず、子どもの側から見た場合に、家庭科の目標である基礎的・基本的知識や技能を習得できるか、家庭を大切にすることを育まれるか、家庭生活をよりよくしようとする能力、そして実践的な態度を育成することができるか、そして子どもが主体的に学んでいくことについて、教科書としてわかりやすく、使いやすく、活用しやすいのほどういう教科書であろうかということ。それから、新宿区の特徴でございますが、新宿区には家庭科の専科教員がおりません。学級担任が学習指導要領に示されている内容を落とさずに指導していくには、それから、生活経験がそれぞれ違う子どもたちに学力として定着させていくにはといった視点で調査を行いました。どちらの教科書も、今回の改訂に沿って、大変内容もよいものだったと思っております。

東京書籍におきましては、家庭科の学び方がガイダンス的に冒頭に記されて、児童にわかりやすい、家庭科の基礎的・基本的な技能面が「いつも確かめよう」というコーナーにまとめられていてわかりやすい、巻末の拡大版も写真が大きくて見やすい、季節による住まい方が1年の中で学べる題材配列は、比較をした指導がしやすい、コラム欄が充実しているので、自国の文化理解やキャリア教育にもつなげていくことができるのではないかと、こういった意見が多く出されました。

開隆堂に関しましては、家庭科の学習、それから2年間を見通した学習の進め方、学び方が巻頭に示されていて、わかりやすい。「できたかな」「ふり返ろう・生かそう」が要所要

所にチェック欄として設定され、自己評価しやすいとともに、家庭での実践への意欲づけとなる。写真や図を効果的に使いながら、基礎的・基本的な技能や方法の手順を見やすく記載し、用語索引や裏表紙の資料化もあり、自力学習や生活の中での活用を容易とするのではないか、他教科との関連がわかりやすく、系統的に学習することができるのではないか、安全面での配慮が丁寧に記載され、学習中も、また生活で実践するときにも意識が高まるのではないか、こういった意見が多く出されました。

議論として大きく私たちが話し合いましたのは4つあります。1つは、題材配列についてです。2つ目は、調理の手順や流れについての写真と図といったことについて話題になりました。また、どのようにこの教科書をその後活用していけるのだろうか、子どもが自主的に活用できるだろうかといった視点でも議論されました。写真の大きさも議論になりましたが、これにつきましては、特に新宿区の教育の中で、ICTの活用、実物投影機を十分活用する場合には、写真が大きくなくても、大きさは自由に教師の側で調節できるのではないかという議論になりました。

以上でございます。

○白井委員長 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたらどうぞ。

○羽原委員 調査報告書のほうで、開隆堂の教科書、テキストは、ストーリー性があるという御指摘ですが、少し具体的に説明していただけますか。

○白井委員長 家庭科調査委員長、よろしいですか。

○家庭科調査委員会委員長 失礼いたしました。家庭科におきましては、まず家庭科を学ぶということで、まず自分自身、自己の成長というものを目的に、目標としております。その中で、ガイダンスとして、家庭科をどのように学んでいくか、そして今後どのように自分を成長させていくかということで、わかりやすく出ておりますのは、例えば開隆堂の教科書の1～2ページのところ、表紙をめくったところをごらんください。こちらに、子どもたちは誕生し、入学して、そして学校の中で4年生までさまざまな教科において勉強しております。それをもとにして、5年生・6年生で家庭科について学んでいきます。ここで学習したことは、その後中学校へ成長していく自分、これを見据えて学んでいく。そして学校での学びは家庭の中につながっていき、この後、子どもたちが自立した生活を営んでいく素地を養っていくということになります。そのことでございます。

○羽原委員 そこだけでしょうか。それは、1年生から6年生、中学生になるのはわかっていますが、それがストーリー性ですか。

○家庭科調査委員会委員長 それから、例えばこの題材配列の中で、まず私というものもしっかりと自分で捉える。例えば題材の配列の中で、4ページのところの目次でござんください。「私」という家族の中での私の存在や家族の生活について、まずガイダンス的に学んでいきます。そして、家庭科で学ぶ食の生活のこととか衣生活や住生活について学びながら、その中で自分でできることを学んでいく。こういったことを繰り返して行われていくのが家庭科のストーリー性でございます。

○羽原委員 これは先生にお尋ねすべきことではないのですが、素朴に感想があればということですが、家庭科の教科書はどちらも女性主導で、ほとんど9割以上あるいは100%みたいに女性がつくっておいでになる。だけれども、家庭科は今の時代は男性の視点、つまり男性の立場、目線で見ると、もうちょっと違う角度も出るのではないか。あるいは、女性が家事中心の時代から離れて、男性も対等にやれという時代に、テキストをつくる方が女性だけというのはどういう趣旨かなど、これは先生に聞いてもしょうがない、教科書会社の問題だけれども、感想だけおっしゃってください。

○家庭科調査委員会委員長 例えば、開隆堂の6ページをござんください。ここに家族という想定の写真がございます。こんな中で、例えば図の中、7ページの図を見ますと、お父さんが掃除をしている場面とか、家族のために食器を洗っているところとか、それから例えば31ページは、写真でもあるのですけれども、小さいですが、上から2段目のところに、向こう側に男性、多分お父さんが台所に立って食器を洗っているような写真も出ております。

このように、家族というのは、女性だけが働くということではなく、男女ともに力を合わせて築いていくということ子どもたちの中に学ばせる機会に今なっていると思います。ですので、写真とかこういったイラストを通して、男女で家庭を営んでいるということで、そこから豊かな人間性を培っていく基礎になるということをお家庭科教育では学ばせられると思っております。

○羽原委員 だからこそ伺ったのです。つまり、教科書をつくる側に男目線があったほうがいいのではないかと僕は思うんです。だけれども、女性だけが、確かに女性のほうが目配りもいいし、いろいろなところでいい、教科書も男女対等・平等に扱っていることはいいのですが、それをつくる側の教科書会社がなぜこうも女性ばかりに依存してつくるとかという、先生の説明はそれを前提にして、そのために男性の先生方とか、あるいはプロフェッショナルな男性がなぜここに参加していないのだろうかという疑問なのです。だから、これはお答えにならなくてもいいのですけれども、つまり教科書会社に僕は言っているのだけれども、そ

れを上手に使えますよという説明を僕は期待しているのではなくて、なぜ教科書をそういう形で作るのかと、それを使う先生側がどう受けとめるかという素朴な感想をお述べいただければありがたい。

○**家庭科調査委員会委員長** 家庭科調査委員長でございます。区内の教員の中には、高学年の男性も指導しておりますし、評価も行っております。また、東京都全体の家庭科の部会の中でも、男性教員の割合も大分多くなってまいりました。現場の中でも、そういった教員の意識も変わってきていると思います。今、私もここまで見てはおりませんでしたけれども、いずれ次の改訂時にはこの教科書作成の中に男性のお名前も載るのではないかなと期待しております。

以上でございます。

○**羽原委員** それはわかった上で、あえてつくる側がそういう目線を持たないことの意味は何かと、それが僕は非常に疑問なのです。僕も、教科書に載っている、あるいは教える先生も家庭科がふえたということを聞いているのではなくて、その程度は社会の流れとしてはわかかっていて、そういう中でなおかつ教科書をつくる人たちには男性の目線が取り入れられないような編さんなのかと、その感想を求めたわけですが、もう結構です。

○**白井委員長** よろしいでしょうか。

では、ほかに御意見、御質問は。

○**松尾委員** 先ほど生活科のところでも伺いましたけれども、安全性のところですか。どちらの教科書も、安全性、針を使うときの注意とか、包丁を使うときの注意とか、そういったことは書かれていますけれども、若干その置かれている位置に違いがあるように思うんです。開隆堂の18ページのところに「始めてみようソーイング」とあって、ここで既に実際に針を使っている写真が載っていますが、このページには安全性に関する説明がなく、次のページを開いて21ページのところになって針を使うときの注意ということで出てくるという感じで、必ずしもこういう順番になっているとは限らなくて、場所によっていろいろなんですけれども、私としては、この針の写真が出てきたところに注意があったほうが注意喚起としてはいいのではないかと思うんですけれども、教科書全体を見て、調査委員会ではどのようにお考えでしょうか。

○**家庭科調査委員会委員長** 今、針の点について御質問がございました。まず、教員の側で指導するときに、初めて裁縫道具を開けるときには、針が何本あって、どのようにおさめるかといったことを指導いたします。その点につきまして、この最初のページのところには針の

本数等確かめる部分がございませんでしたが、21ページのところではっきりと、針を使うときにはどうするかということ、安全面の注意ということが出ていと受けとめております。

それから、その他の点につきまして、調理なども初めてすることが多いのですけれども、開隆堂は3ページのところに、安全に学習するためにとということで、特に新しく使うこと、新しく行うことについて、安全面での配慮がここで大きく取り上げられ、そしてそれぞれの部分に、先ほど御指摘の21ページのように安全マークで、それがまたそれぞれのところで記載され、そしてなおかつ必要な部分は、111ページのフライパンの扱い方のように、再掲として安全面がまた出ています。何度かこのような形で、安全面についての配慮はたくさん記載されていると思います。

○羽原委員 このどちらの教科書も、簡単にいえば、同数という非常に珍しい評価の割れ方になったわけですが、構成のよさとか、あるいは使い勝手のよさとか、こういう点で開隆堂が評価されたのかなという印象ですが、何かこの評価が同数になったときの選別の具体的な選択の論拠のようなものがありましたら教えてください。

○家庭科調査委員会委員長 今回の改訂のポイントの中で、食生活の充実ということがございます。調理等の重視ということですが、調理というのは子どもが大変関心を持って行う題材ではございますけれども、その場合に、例えば開隆堂で申しますと12～13ページをごらんください。今回の教科書では、このような形で写真で枠をとって、手順ごとに示されています。調査委員会では、こういったことが、非常に具体的であるという意見が出ました。

また、84ページ、「洗濯をしてみよう」のページをごらんください。こちらでも、準備のところに「身支度をする」「洗濯物のポケットの中などを点検する」とありますが、実際に子どもがポケットの中を点検していることが図で示されています。こういった具体性が出ていところが、調査委員会では意見として出ました。

それから、開隆堂の最後の裏表紙の前のところ、113ページ、こちらは家庭科学習でよく使われる用語が出ております。自分でまた後で勉強してみよう、やってみよう、家でもう一度確かめてみようというときに、ここを見ると、この勉強したことはこのページに出ているということが具体的にわかりやすい。そして、裏表紙ですが、中での調理実習時の切り方を見なくても、この裏表紙を見ますと野菜の切り方がわかるということで、教科書がそのまま資料としても使いやすいという意見が多数出されました。

以上でございます。

○今野委員 家庭科の場合に、衣食住の知識・技術を理解する、身につけるということも大事

ですけれども、家庭生活とか家族の大切さを理解する態度を養うということも大事だと思いますが、2つの教科書でその点についての違いのようなものはありますか。

○**家庭科調査委員会委員長** 今回の家庭科の改訂に伴いまして、内容は全部で4つ示されています。1つは、「A 家庭生活と家族」、「B 日常の食事と調理の基礎」、「C 快適な衣服と住まい」、「D 身近な消費生活と環境」です。今おっしゃられましたように、「A 家庭生活と家族」というものにつきまして、「B 日常の食事と調理の基礎」や「C 快適な衣服と住まい」、「D 身近な消費生活と環境」の内容にかかわらせるということになっております。題材の構成が両者ともそのようになっています。

目次のページをごらんください。例えば東京書籍も、最初に「わが家にズームイン」ということで、家族の生活や自分自身を見つめ直す、こういったことを扱っています。この後、東京書籍については、ここから家族の団らんの部分に入っていきます。そして、一つ一つ、調理とか衣生活、住生活などの題材に配列されています。

開隆堂に関しましては、4ページをごらんください。開隆堂では、「わたしと家族の生活」という2ページですが、この題材で家族の生活について、また自分の生活について見直し、見つめ直し、そして調理・衣生活・住生活を行って、またそれらを行った後に「やってみよう家庭の仕事」ということで、自分の生活をもう一度振り返っていくといったサイクルになっています。小さい題材を、少しずつ勉強を重ねながら家庭の生活を自分で見直していくように、細かく5年生のところで題材の設定が行われております。

以上でございます。

○**白井委員長** ほかに御意見、御質問は。

○**松尾委員** ただいまの今野委員の御質問と関係するのですが、家庭の事情というのは実際のところさまざまございまして、一人親家庭であるとか、お父さんが単身赴任で遠くにいらっしゃるっているとか、いろいろなケースがあると思うのですけれども、そういった多様なケースを通じて、家族との団らんについて指導していかなければいけない。そう考えたときに、どのように指導なさるのでしょうか。

○**家庭科調査委員会委員長** 今回の家庭科の中では、社会の変化への対応ということも入ってございます。それらも含めて、多様な家庭生活はあるということは前提に、授業は行われなければいけないと思っております。ここでは、自分が今後家庭生活を営んでいくときに、まず自分自身が自立して、食事もつくれる、家庭生活が営める、そして家庭の中では分担して役割を決めて仕事をやっていく、そういったことが望ましいということで学んでいくと捉え

ております。

○松尾委員 今回の教科書の中では、具体的にどのように指導することができるのでしょうか。

○家庭科調査委員会委員長 例えば開隆堂30ページには「やってみよう、家庭の仕事」ということで、今まで学んできた題材について、写真も入っております。この中で、自分自身はどのようなことができるのか。自分の家族、家族構成も含めて、自分の中で自分ができることは何なのかということを考えながら行っていくということになるかと思います。

32ページなどにも、家庭生活をよりよくするという視点を、自分自身ができることということが参考の資料としても上げられています。

○松尾委員 そうしますと、開隆堂の教科書の場合ですと、30ページあたりで、自分ができる家庭の仕事というものを見つけていって、そして62ページの「家族とほっとタイム」というところで、自分が家族とほっとだんらんできるように成長していこうという流れで指導なさるといっていいのでしょうか。

○家庭科調査委員会委員長 おっしゃるとおりです。それらのことを踏まえて、だんらんの「ほっとタイム」のところで、こういう時間も持つことが家族の中では大切なひとときになるということの学びにつながっていくと思われまます。

以上です。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問はございますか。ほかに御意見、御質問がなければ、家庭科の質疑応答を終了させていただきます。

家庭科調査委員長、ありがとうございました。

では次に、保健に移ります。保健について、指導要領の中での目標、教科の特性等と調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○体育科調査委員会委員長 体育科調査委員長です。よろしくお願いいたします

初めに、目標についてお話をさせていただきます。体育科の目標は、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる」でございます。

その中で保健についてお話しさせていただきますが、3・4年生につきましては、「健康な生活及び体の発育・発達について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる」。具体的な中身としましては、「健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解できるようにする」。2つ目は、「体の発育・発達

について理解できるようにする」です。

5・6年につきましては、「心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる」ということで、内容的に3つ。1つ目が、「心の発達及び不安、悩みへの対処について理解できるようにする」。2つ目、「けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする」。3つ目、「病気の予防について理解できるようにする」となっております。

改訂の基本方針としましては、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視して改善を図っているわけですが、その中で、心と体をより一体として捉え、健全な成長を促すことが重要であるということで、引き続き保健と体育を関連させて指導するということが重要であるということ、2つ目は、学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視するということになっております。その中の保健については、生涯を通じて、みずからの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成するために、1、小・中・高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、子どもたちの発達の段階を踏まえて保健の内容の体系化を図るということ。生活習慣の乱れやストレスなどが健康に影響することを学ぶことが重要であって、健康の概念や課題などの内容を明確に示すとともに、心身の発育・発達と健康、生活習慣病などの疾病の予防、保健医療制度の活用、健康と環境、傷害の防止としての安全などの内容の改善を図っております。

委員会で話し合った内容についてですが、当然のこととして、子どもにとって学びやすい教科書なのか、教師にとって使いやすい教科書なのかといったことで議論を進めましたが、具体的には、見やすさということはどうなのかということ、目次についてとか、色の使い方とか、教科書に出てくるマークのあり方とか、本時に学習する内容が一目でわかるようになっているのかとか、学習した内容を子どもが振り返られるようになっているか、教師の話聞くだけではなく、みずから学べるような構成になっているのか、発展的な学習につながるようになっているのか、そんなことを観点に議論してまいりました。具体的にどのような御意見が出たかということについては、総合的な意見として、各教科書会社の意見についてお話をさせていただきます。

初めに、東京書籍ですが、内容が具体的で理解しやすく、改訂の趣旨を踏まえた記述も工夫されている。児童が学習と実生活とのつながりを意識しやすい記述も学習に効果的である。単元の配列や分量、内容等については、普通と判断した。各単元の学習内容に合わせて、データや写真等の資料も効果的に配置されており、児童が主体的に学習に取り組む上で活用し

やすい。児童が4年間の学習について見通しを持ちながら、単元ごとに定着を確かめる全体構成も学習に効果的であるとありました。

続きまして、大日本図書です。他教科との関連がわかる部分や体ほぐし・エンカウンター等の資料、ホームページのアドレスなど、学んだことを生活に広げていくために参考となる情報が多く記載されており、学習したことを子どもたちの実態に合わせて活用しやすいように工夫がされている。また、保健ゲームやシールでの作業など、子どもたちが興味を持って取り組めるような工夫もされているとありました。

続きまして、文教社です。イラストや色を効果的に使い、わかりやすい構成になっている。児童が丸をつけたり、書き込んだりできるページが多く、ワークブックとしての活用ができる。発達段階に合わせ、学年が上がるごとに読み物資料がふえているので、飽きずに学習できる。また、ホームページのアドレスや電話番号なども紹介されており、調べ学習をさせることができるとうございました。

続きまして、光文書院です。全体を通して、内容面では写真やイラストが充実している。児童にとっては、視覚的に写真・イラスト等が多いため、活用しやすい。改訂面の食育とも関連しているところがあり、よい。単元の配列、分量、内容等に関しては普通と判断した。各単元に豆知識などの情報が掲載されている面が児童の自主的意欲につながり、よい。また、調べられるように、サイトのアドレスもあるので、発展的な学習もできると思うとうございました。

最後に学研です。内容の選択においては、最近の児童の実態や社会的背景を反映させた教材を幅広く丁寧に扱っている。また、改訂の趣旨を十分に生かした内容となっている。表記・表現においては、全体的に写真を多く掲載しており、視覚的に理解しやすくなっている。使用上の便宜においては、他教科との関連をわかりやすく示したり、書き込みのできるスペースを多く設定したり、児童の心に寄り添った「注記」の工夫をしたりと、とてもすぐれているとうございました。

以上です。

○白井委員長 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたらどうぞ。

○羽原委員 ちょっと教科書から離れるかもしれませんが、小学校6年生を対象として、喫煙・飲酒について、かなりのページをどちらの教科書も取り上げておいでですが、飲酒・喫煙は小学校6年生で初めて出てくる問題ですか、教科書としては。

○体育科調査委員会委員長 はい。

○羽原委員 6年生ぐらいになると、そういう知識はないよりはあったほうがいいわけけれども、授業として、指導というか、問題意識を持つような時間というのはどのぐらいになりますか。

○体育科調査委員会委員長 5・6年生の教科書は、大体16時間程度の配当になっております。ということで、喫煙とか飲酒等については、1時間、長くても2時間程度で扱うような形になると思います。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問はございますか。

○教育長 東書について、ワークシートとしても活用できるといった書き込みがされているのだけれども、具体的にどういうことか、教えていただけますか。

○体育科調査委員会委員長 では5・6年生でよろしいでしょうか。具体的には、例えば7ページとか、「右の表から選んで、括弧に数字を入れ、その理由を書きましょう」ということで、自分の考えを書き入れる。また、例えば10ページで学習の振り返りをしようなどというページがありますが、そういう中で、今まで自分が学習したことを振り返って自分で書き入れる。そのようなところは全体を通してあります。例えば16ページ、17ページ等にも、自分で考えたことを記入するようなページがあります。

以上ですが、よろしいでしょうか。

○教育長 ありがとうございます。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問はありますか。

○松尾委員 実際に保健の授業を行う場合には、こういう教科書はどのような形で使うことが多いのでしょうか。

○体育科調査委員会委員長 すみません、どのような形で使うかといいますと。

○松尾委員 机の上に広げて、例えば先ほどワークシートのように使えるとありましたけれども、そういう場合には、例えばこれを参考にしてグループ学習にするとか、あるいは一人一人が記入して、それを話し合うとか、いろいろなやり方があると思うのですが、その教科書の位置づけというのはどんな形になるのでしょうか。

○体育科調査委員会委員長 一般的な使い方としましては、保健については、算数とか国語と同じような使い方をしていることが多いと思います。この教科書を使って学んだ後、先ほど言いましたように、自分で意見や考えなどを教科書に書き入れる。そのような使い方をしているのが一般的ではないかなと思っております。

○松尾委員 新宿区のICT設備、プロジェクターで映すという使い方も考えられるかと思い

ますけれども、プロジェクターを使用したという仮定で教科書を比較すると、何かわかることはございますか。

○**体育科調査委員会委員長** 例えば、東書の5・6年生の12・13ページを開いていただいたよろしいでしょうか。事故やけがの原因ということで、この絵の中から自分で危ないところはどこかなということを探す、それが学習になるわけですが、これを実物投影機で映して子どもが考えた後、一緒に答え合わせをするなどといった使い方が有効かと思っております。

○**松尾委員** ただいまの例で、12ページ・13ページですと、交通安全ということに関連しますね。そうしますと、この絵は絵としていいですけども、それを実際に日常生活に生かしていくということが大切であろうかと思うのですけれども、そのあたりはいかがでしょう。例えば、実際に学校の近くと家の近所の様子とを対比して、どういう場所で気をつけたらいいか、あるいは実際に家の近くでけがをしたらどうしたらいいかといったことについては、どのように指導なさるのでしょうか。

○**体育科調査委員会委員長** 今、保健の学習の中だけではなくて、例えば生活科の中で安全マップをつくろうなどといったものもございます。学区域の中で危険なところを子どもたちが実際に歩いて探す。そういうことも含めて実生活と結びつけていることもあります。保健の中で、時間が許せば、実際に子どもたちと歩いて、先ほど言いました12・13ページの中のようなところを地域に出て探すということもあるかと思っております。

以上です。

○**松尾委員** ちょっと生活科とは学年がずれていますので、直接連携してというのは難しいかと思えますけれども。

○**体育科調査委員会委員長** すみません。では、東書の27ページを見ていただいてよろしいでしょうか。ここは「広げよう」ということなのですが、27ページに安全マップをつくろうということが出ております。こういうところで、先ほどの教室の中で学んだことを実生活に生かすなどということをつなげているのではないかと思っております。

以上です。

○**松尾委員** この「広げよう」というのは、発展的事項に入るのでしょうか。

○**体育科調査委員会委員長** はい。

○**松尾委員** わかりました。そうすると、実際にこの保健の学習すべきことにさらに加えて、発展的事項として、授業の中でこういったものを扱っていく。それが望ましいということですね。わかりました。ありがとうございます。

○菊池委員 これも教科書からは少し離れるかもしれませんが、実は、家庭と保健のどこかで出てくるのかなと思ったのですけれども、今、食のアレルギーの問題がありますね。小学校でも当然アナフィラキシーのことをどこかで教えるのだらうと思うのですけれども、これはどこの場面でそういうことを指導するというか、教えていただくのですか。家庭科の食事の話で出てくるのか、それとも保健のほうで出てくるのか。両方にそういうことは書いていなかったようなので、それをお伺いしたいのですが。

○体育科調査委員会委員長 今回の食物アレルギーについてなのですが、5・6年生の病気の予防という、例えば東書でいえば29ページからですが、その中で指導していく内容だと思っております。

○菊池委員 それは教科書には載っていないので、先生個人の力量によって説明されるということになるのでしょうか。

○体育科調査委員会委員長 今、食物アレルギーについては、事故をなくそうということで、全職員がそのことを認識しておりますので、担任として、そういう内容もこの中で取り扱っていくのではないかと考えております。

○菊池委員 難しい話だと思うのですけれども、どこかでそういうことにも触れる必要があるのかなと思います。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問はありますか。よろしいでしょうか。

ほかに御意見、御質問がなければ、保健についての質疑応答を終了させていただきます。

調査委員長、ありがとうございました。

以上で本日予定していた種目ごとの指導要領の中での目標、教科の特性等について、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについての質疑は終了いたします。

各教科調査委員長の皆様、ありがとうございました。

それでは、ここで10分間の休憩をとりたいと思います。再開は3時20分とさせていただきます。

午後 3時10分休憩

午後 3時21分再開

○白井委員長 それでは、協議を続けます。

各教科の調査委員会における調査についての質疑は終了しましたので、ただいまから、教科用図書審議委員会の調査結果について、審議委員会委員から種目ごとに説明を受け、質疑

を行い、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行います。

それでは、算数について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○審議委員会委員 審議委員の中野です。

それでは、算数について、まず学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは東書で、29校中17校がA評価でした。調査委員会調査の結果は、東書は総合評価でAでした。審議委員会では、東書をA評価としました。その理由、意見等として、問題解決の過程をスモールステップで示すなど、個に応じた指導を行いやすい構成になっている。児童に教える箇所と、児童みずから問題に取り組む箇所が明確に区別されており、経験の少ない教師もメリハリをつけた指導が行いやすい等の意見が上がりました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、大日本では、児童みずからが学習事項を大切にして学習を進められるようにしている。学図では、別冊「中学校へのかけ橋」は、小学校の学習の復習や中学校の学習への円滑な接続に役立つ。教出では、巻末にコンパスの使い方や定規の使い方が具体的に示されている。啓林館では、「算数から仕事へ」のコーナーで、仕事と算数を結びつける工夫がなされており、児童の興味・関心を高めることができる。日文では、多様な数学的表現方法を相互に関連づけて、思考や説明に用いさせる工夫が見られるなど、よい点が上げられました。

最終的に審議委員会として、学校評価、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東書をAと評価いたしました。

以上でございます。

○白井委員長 説明が終わりました。御質問がありましたらどうぞ。

御質問のほうはよろしいでしょうか。

それでは、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。順番にお聞かせください。今野委員からお願いいたします。

○今野委員 調査委員会、それから学校調査を踏まえて、審議委員会として東書が一番いいという結論だったと思いますけれども、実際に教科書に当たってみましたところ、やはり審議委員会の意見が同じように適当だといった感想を持ちました。

内容的には、説明もありましたけれども、教科書の記述が順を追って、子どもたちが非常に理解しやすい記述になっている。それからまた、全体的にも、段階を追って、より難易度

の高い問題が自然に理解できるような配慮がなされているように思いました。

それから、個別のことですけれども、特にノートの書き方も具体的に示されておりまして、子どもたちにとっては非常に理解が進む、また自分のノートをつくる時にも非常に参考になるだろう、また家庭で教える場合にもとても役に立つのではないかなと思いました。それから、いろいろな工夫がされていて、問題に応じて、手がかりとか、振り返りとか、さまざまな工夫で、自分で勉強していくには、とてもやりやすい教科書ではないかなと判断いたしました。

したがって、私も、算数については東書が適当だという結論でございます。

○松尾委員 算数の教科書に関しましては、各社それぞれ工夫がなされていて、それぞれ個性が見られるように感じられました。その中で、新宿区で特に若い先生が多いということ、それは私も保護者として学校の先生方と接する中で非常に強く感じているところでありまして、経験の浅い先生でも使いやすい。しっかり指導ができる。基本的には教科書に沿って、なおかつ教科書に丁寧な説明がありますので、それに加えて自分なりの工夫をしても、安心して指導がしやすいのではないかと思いました。ですから、しっかりした指導をすると同時に工夫をすることもできる。そういう意味で、東書の教科書がすぐれているのではないかなと感じました。

また、既に一昨日の審議委員長からの御説明、それから先ほどの御説明にもありましたけれども、教科書が現行の教科書から変わるということについても、大きな問題はないであろう。そして、子どもたちが例えば学校を休んだときに、自学自習あるいは御両親と一緒に家庭で勉強するといった場合にも使いやすい。さまざまな面で東書のものが新宿区の教科書に適していると思いました。

○菊池委員 私も、先ほども出ました東京書籍の円の面積の求め方の部分をちょっと入念に拝見させていただきましたけれども、先ほどおっしゃられたようなスモールステップになっていて、本当に飛躍が少ないので、次のことが予測でき、理解しやすい。余り飛躍があると、数学の場合は、瞬間的にひらめいてわかる子と、私のようにちょっと飛躍があるとわからなくなってしまう人がいるんです。ですから、自分の経験を振り返って言えば、この東京書籍のようなスモールステップでやっていって、そこでわからないことがあったときにここへ戻れという、今まで教わっても理解できなくなっていた、あるいは忘れていたものを、リターンというページですが、あそこに戻って自分の力でもう一回そこへ行ける。もちろん保護者の方も同じことができるということで、家庭でもお子さんに教えられるのではないかという

ことで、もちろん学校の先生にも役に立つのかなと思ひまして、東京書籍のこのつくり方は非常に素晴らしいと思ひます。これを推したいと思ひます。

○**教育長** 私も、この振り返りとかというところで一番巻末のほうに出ているものが参考書としても大変すぐれているなと思ひますので、東京書籍がふさわしいと思ひます。

○**羽原委員** 結論的に、東書がいいと思ひます。先ほども触れましたけれども、習熟度のクラスをつくるということは、クラスの間帯の子どもたちをドロップアウトさせないで、一歩ずつスモールステップで理解させて上の知識の活用につなげていくという、特に算数・数学はそれが必要な科目ですから、先ほども出ていたような目次のところで、どこをもう一度見ればいいかと、これは、子どもはそれほど感じないけれども、意欲ある親御さんたちには役に立つし、それから本人にとっては、振り返りコーナーという3年生以上に出ているものは、教科書を処分してもここだけずっとファイルしておくとか、そういう努力をすれば、使いやすいし、振り返りやすい。中学生ぐらいになると振り返る学習ということはある程度できるけれども、小学生だとまだちょっと自分で、何がわからないから何を選んでアプローチしようという作業はなかなかできないので、そういう意味ではこの振り返りコーナーは、僕はむしろもっと充実させるほうがいいと。重複、反復というものが算数の場合は必要ですから、その意味でももっと重厚なつくりになってもいいだろうと。教科書と参考書を一緒に含むようなもの、それもある意味で必要ではないかなと僕は思ひました。そのようなことで東書がよろしいかと思ひております。

○**白井委員長** 算数について、皆様の御意見をお伺いしたところ、東京書籍という御意見で一致しております。

それでは、確認させていただきます。算数については、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として、東京書籍発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○**白井委員長** それでは、そのように進めたいと思ひます。

次に、生活について、審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○**審議委員会委員** 審議委員の中野でございます。

それでは、生活について、まず学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは東書で、29校中12校がA評価でした。調査委員会調査の結果についてですが、東書が総合評

価でAでした。それを受けて、審議委員会では東書をA評価としました。その理由としては、学習の見通しを持たせ、児童にも教師にもわかりやすい工夫がある。安全に配慮されており、登下校時や校外で活動する際の注意点等が詳しく取り扱われている等が上がりました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、大日本では、「せいかつことば」というコーナーがあり、語彙・表現力を高めることができる。学図では、教科書の版が大きく、児童にとって見やすく工夫されている。教出については、1年間の学習活動の見通しがわかりやすく示されている。光村については、単元が「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」で構成されており、学習の流れがわかりやすい。啓林館については、別冊の「たんけんブック」が屋外活動の際に活用できる。日文では、巻頭の「いちねんせいになったら」で授業の約束が示されており、学習規律を重視しているなどがよい点として上げられました。

最終的に審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東書をAと評価いたしました。

以上です。

○白井委員長 説明が終わりました。御質問がありましたらどうぞ。

御質問がなければ、採択にふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。逆回りで、酒井委員からお願いいたします。

○教育長 結論から言いますと、東京書籍がよろしいと思います。大変、植物の変化に対しても、工夫と、子どもの興味・関心が自然に引き出されるような編集工夫がされていて、そういう点で学校現場の評価も高いのかなと考え、東京書籍がふさわしいと私は考えます。

○菊池委員 たくさんの教科書がありまして、どれを見ても楽しくなるようなすばらしい絵とか写真があって、特に最初の学校が好きになるところは、そういう導入部分は大事ななと思って見ていたのですけれども、どれもすごく楽しくなるようなすばらしいイントロダクションだなと。要するに小一プロブレムとか、それを解消する意味でも、最初の生活というのは、そこからスタートするから大事ななと思って見ましたけれども、これにおいては、どれも甲乙つけがたいのかなといった印象でしたが、ほかの部分で、先ほども御指摘がありましたけれども、種がこのように育って花になっていくとか、非常に工夫がなされていて、子どもの興味を引きやすく、それから虫、植物、自然のことを自然に自分の中に取り込んでいきやすいのは東書かなと思いました。ですので、東書を推薦したいと思います。

○松尾委員 生活科の教科書は、先ほど菊池委員がおっしゃったように、どれもよくできてい

て、工夫がされていて、自分で見た限りでは、どれがいいというのがなかなか判断つかない。例えば具体的な植物、昆虫等を各社それぞれ載せておりますけれども、どの会社のものが新宿区にふさわしいのかというのは、なかなか、私は正直、判断がつかねました。その中で、小学校の学校調査の報告で、東書のもが他者と比べて大きく評価が高いということで、ここは、実際に学校で教えている先生方のお考えが一番新宿区に合った教科書を選ぶという点ではキーポイントになるのではないかと考えまして、私は学校調査報告で一番評価の高かった東京書籍を採択するのがよいと思います。

○今野委員 私も東書がいいと思います。学校でも調査委員会でも評価が非常に高いということがありましたし、きょうお話がありましたように、中で植物の種と花と苗とか何かを3つ一緒に、経緯がわかるような工夫等、非常によくいろいろなところで工夫されているように思いました。それから、ページの右端のところ、ところどころ、いろいろ、何に気をつければいいのかなどといったことで、コラムのような形でいろいろな気付きを生むような仕組みがなされているといったことも含めて、非常に工夫された教科書になっているのではないかと、審議委員会の答申どおり、東書がいいと思いました。

○羽原委員 結論から言いますと、東書がいいと思いました。生活という教科が、ひとりで自立した生活に入れる、つまり一個の個人として社会に出て行ったときにきちんとするという観点のテキストだと思ひまして、その点で東書の場合は、日常の初歩的な諸動作について、例えば歯を磨くとか、手洗い・うがいをするとか、風呂に入るとか、誰かと一緒に風呂に入るというのはあるけれども、自分で風呂に入るとか、そういうひとりの生活として、小学1年生の子どもが生活を身につけていくという意味で、この教科書はほかとちょっと違う。つまり、当たり前の日常生活についての手ほどきが盛り込まれている。あるいは、公共的な問題にしても、電車に乗るとか、そういう都市型の子どもたちだけではなくて、また木の実を拾うとか、いろいろそのような地方というのか、地域社会で生きていく上でも、自然と触れ合うとか、そういう観点はほかのものよりもいいのではないかなと思ひました。

それから、教科書の編さん者のことと言いますと、東書のほうが各地の先生を編さん委員にしている。大日本などだと、東京中心の先生方だと。つまり、生活というのは、地域社会、九州でもあるし、沖縄でもあるわけで、別に新宿区で採択する教科書で、東京もあるのだから、それでいいといえばそれまでだけれども、教科書としては、やはり目配りという点で、都市、地方あるいは九州から北海道といった地域差のイメージがある程度生活の中にはあったほうが望ましいのではないかと。そういう意味では、学校の先生あるいは教授、研究者の

人たちが、別に地域にとらわれているとは思わないし、トータルで見ていることは間違いな
いけれども、できれば地域社会で生活している先生方の意見も入ってくるような教科書の編
さんのほうが僕は好ましいと思います。先ほどの家庭の女性の問題も、男女が一緒に生活し
ているのが日常なのだから、両方の意見が取り入れられるような仕組みをつくったほうが教
科書としては望ましいという趣旨で、東書がいいのではないかと思います。

○白井委員長 皆さんの御意見は一致しているようですので、最終確認をさせていただきたい
と思います。

生活については、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様
の総意として、東京書籍発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とするとい
うことでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○白井委員長 それでは、そのように進めたいと思います。

次に、家庭について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、
御説明をお願いします。

○審議委員会委員 審議委員の中野でございます。

それでは、家庭科について、まず学校調査の結果についてです。学校調査では、両社とも
全く同数で、東書、開隆堂とも12校がA評価でした。B評価、C評価についても、全くの同
数でした。調査委員会調査の結果は、開隆堂が総合評価でAでした。

審議委員会では、開隆堂をA評価としました。その理由として、児童の目線で見やすい写
真が使用され、作業の工程等を統一した色で示されているので、児童にとって理解がしやす
い。裏表紙に包丁の使い方の写真が示されており、調理実習時に教科書を開かなくても手元
に置いて活用することができる等が上がりました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、東書については、基礎的・基本的な技
能が「いつも確かめよう」というコーナーにまとめられていて指導しやすいという点がよい
点であるとして上げられました。

最終的に審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認
しながら総合的に判断した結果、調査委員会評価でA評価であった開隆堂をAと評価いたし
ました。

以上でございます。

○白井委員長 説明が終わりました。御質問がありましたらどうぞ。

○松尾委員 先ほどの調査委員長からの御説明の際に、羽原委員から小学校調査報告書についての内容に係る御質問がありましたが、これについて改めて、小学校調査報告書の中のストーリー性がありという部分について御説明をいただけますでしょうか。

○教育指導課長 審議委員会委員の横溝でございます。

今、ストーリー性というお話をいただきました。これは、学校調査の中で上がっている部分なのですが、具体的にどういうことを指しているかということについて御説明したいと思います。

家庭科という教科は、5年生・6年生の2年間で学習する教科でございます。この2年間の学習の見通しを持てるようにということで、ガイダンス的な内容が盛り込まれてございます。それを5年生の最初に学習することになります。つまり、5年の段階で、例えば「始めてみようクッキング」という学習をした後、それが6年生になったときには「炒めてつくろう朝食のおかず」というふうにスパイラルに繰り返し展開していくのだという流れになっているということが、ストーリー性という言葉で示されているものでございます。

○松尾委員 これは、東書のほうではそういう形にはなっていないということでしょうか。

○教育指導課長 東京書籍においても同様に、5年生で学習したものが系統的に段階的に再度6年生で当然出てくるようなつくりにはなっております。そこに大きな差異はないと考えています。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問はございますか。

では、質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○今野委員 学校側の意見は同数ですし、調査委員会のほうでも比較的いい評価が多かったと思います。結論的には開隆堂ということになっておりまして、審議委員会全体でも開隆堂ということで、それを参考にしながら私なりに見てみました。確かになかなか両方よくできているのだろうと思いつつ、少し丹念に見たのは、さっきも少し質問の中で申し上げましたけれども、家族とか家庭生活についての記述が両方それぞれあるのですけれども、どちらかという開隆堂のほうは、しっかりと打ち出しも大きいですし、中身も充実した感じを受けましたので、それらも含めて審議委員会の結論を支持して、開隆堂としたいと思います。

○松尾委員 家庭科という科目は、例えば家族のことについて教科書で学ぶという部分もありますが、例えば調理とか、あるいは裁縫とか、そういった実際に自分で手を動かして作業するという部分があります。その部分のウエートはかなり大きいものだと思います。そのように

考えますと、音楽の教科書のところでも述べましたけれども、実際にその教科書を読む部分もさることながら、教科書を使って作業するという部分のウエートが家庭科の場合にはかなり大きくなっているものと思います。そのように考えたときに、開隆堂の教科書は、非常に使いやすくできている。また、実際に作業をしながら見たり、見ながら作業をするといっても、安全性のこともありますから、常にあっちを見たりこっちを見たりしながらできるわけでもありません。ですから、しっかりよくまとまっていて、頭の中にすっと入る。そして、必要なら短時間で見ることができる。そういう形で、実際に作業をする上で使いやすいということが、家庭科の教科書の場合には大切ではないかなと思いました。その観点から見まして、私は開隆堂の教科書のほうがすぐれていると考えまして、開隆堂の教科書を推薦いたします。

○菊池委員 今、松尾委員もおっしゃいましたけれども、家庭科というものがどういうことかということが、私は改めてこれを見て考え直させられました。家庭科は、これからすごく重要度が増す科なのではないかなと思いました。といいますのは、今は核家族化であり、家庭内が希薄になって、スマホとか、パソコンとかで、家族のつながりが非常に薄れていく中で、一緒に御飯をつくったり、一緒に掃除をしたりとか、何かを一緒にやることによって非常につながりが増しますよね。そういう視点。それから、料理をつくることによって栄養学のことを自然に頭に入る。これは、栄養学のことを僕は両方を比較してみたのですけれども、どちらもいいんですよね。表現法が違うのですけれども、五大栄養素からミネラルのこともちゃんと書いてありまして、体をどのように構成しているのかといったところまでちゃんと書いてあります。また、冬はどうすれば快適に過ごせるかということ、要するに化石燃料を使わずに、エコの観点から非常にアプローチしてありました。また、料理も、ごみを出さない料理ですよね。そういう全ての、これからの時代に非常にマッチしたことが凝縮されているなど。例えば、朝御飯を食べたほうがいいですよというのも書いてあります。サーモグラフィか何かで、朝御飯を食べた後の子は体が温まっているという。そうすると脳も温まっているわけで、朝から授業を聞いても頭の中へ入っていきやすいなど、そういういろいろなことが書いてあって、非常に勉強になりました。

これは、どちらも甲乙つけがたい、一長一短がありますけれども、トータルで見ると、見やすいのは、どうも開隆堂のほうが項目の出し方が上手なのかなと思ひまして、皆さんが開隆堂を推された理由がわかるなと思ひまして、私も開隆堂のほうを推したいと思ひます。

○教育長 開隆堂のほうは、本当に使える教科書という感じがします。裏表紙に出ている調理

の解説とか、索引とかということで、使える教科書という点で、私は開隆堂を推したいと思います。

○羽原委員 僕は、この学校評価の数字に迷うわけではないのですが、どちらもいいと。ただあえて言えば、使い勝手がいいというところにAがついた理由を臆測してみますと、家庭科の授業は、テキスト中心の授業ではなくて、大体、先生が黒板に集中させながら最初の説明があって、その後はグルーピングされたり、あるいは自分の作業に入ったりすると、文字が多いよりは、ビジュアルを見ればわかるということで、特に家庭科の教科書で家で復習・予習するなどという子は、いるかもしれないが、ほとんどいないと思う。むしろ、お母さんなりお父さんなりが料理をつくったりなどするときに「こうやるんだよ」といった生活の中での扱いでしょうから、そうすると、なるべく字面ではなくて絵面で示されたほうが使いやすいのかなという感じがしまして、余り選びたくはないのですが、意思表示しなければいけないということで、開隆堂というところであります。

○白井委員長 皆様の御意見は開隆堂で一致しているようですので、最終確認をさせていただきますと思います。

家庭科については、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として、開隆堂発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによってよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○白井委員長 それでは、そのように進めたいと思います。

次に、保健について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いします。

○審議委員会委員 審議委員の中野でございます。

それでは、保健について、まず学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのが東書で、29校中10校がA評価でありました。調査委員会調査の結果ですが、東書、文教社、光文、学研の4社が総合評価でBでした。審議委員会では、これらを踏まえ、東書をA評価といたしました。その理由として、児童が4年間の学習について見通しを持ちながら、単元ごとに定着を確かめられる全体構成が効果的である。単元の終わりの「学習を振り返ろう」は、生活との関連が図られるような配慮がされている等の理由が上がり、A評価といたしました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、大日本では、養護教諭が内容の科学的

な解説や補足説明を行うコーナーがあり、養護教諭等とのチーム・ティーチングを促すことができる。文教社では、アスリートからのメッセージは、児童の学習についての意欲を高められるように工夫されている。光文については、防災について丁寧に取り扱っており、発展学習として進めることができる。学研については、薬物乱用に関する取り扱いは具体的でわかりやすいなどが、よい点として上げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多い東書をAと評価いたしました。

以上でございます。

○白井委員長 説明が終わりました。御質問がありましたらどうぞ。

特に御質問はよろしいでしょうか。

それでは、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○教育長 学校評価が最も高いという東書を推したいと思います。確かに、單元ごとにまとまりがきちんとしていて、何を学んだか、何を学ぼうとしているかというのが非常にわかりやすく、そういう意味で学校の評価も高かったのかと思います。東書を推したいと思います。

○菊池委員 学研と東書が競った結果だったのかなと思っています。内容を見てみますと、学研もいいところがあるんですね。特に医療の分野でいうと、学研のほうがいいのかという感じがしました、個人的ですが。それと、先ほど少し質問がありましたけれども、喫煙ですが、小学校から始める人が多いんです。小学校から始めると非常に危険であるということは我々の中では常識で、ここでしっかりと食いとめておきたい。もちろん、ほかの薬物にも波及することであるので、今、覚醒剤問題でいろいろと社会問題になっていますけれども、学童から飲酒、薬物、たばこ、これは絶対に接しさせないというか、ここで食いとめるのが非常に大事であると思っています。いろいろおどかしが効いた絵もありまして、どちらがおどかしが効いているかと思うと、学研のほうが効いているのかなという感じです。でも、トータルで見ますと、やはり僅差で東書のほうがいいのかと、皆さんが推薦されたほうに軍配が上がるかなと思います。私も東書を推薦したいと思います。

○松尾委員 なかなか甲乙つけがたいところだと思うのですが、先ほど話題に出ましたけれども、安全マップのところ、東京書籍のほうは27ページに安全マップをつくろうというのがありまして、学研のほうは23ページのところ、記述がありますけれども、東書のほうは安全

マップの具体例が明示されておりますが、学研のほうは扱いがちょっと簡単になっています。

それから、その安全について、けがの防止のためにいろいろな挿絵とか写真とかがあります。東京書籍の19ページにある挿絵ですが、潜んでいる危険ということで、下の絵のような場面にはどんな危険が潜んでいるか、人の行動と環境の両方から考えてみましょうということで、自転車で追いかけている。この追いかけている自転車から見てどのように見えているかという絵になっていて、これは非常にすごく危なそうな感じが絵からにじみ出ている、親の立場というか、親が、子どもがこのようにしていたら、冷や冷やして、頼むからやめてくれという気持ちになるような、そんな絵なのです。それから左側の挿絵も、ちょうど左折している車が内輪差で子どもに当たりそうな雰囲気になっています。ですから、この絵の目線が人の目の高さ、実際に目にする目の高さで描かれていて、どんなときに危険なのかということ、親もですけれども、子どもが身にしみてわかるようなものになっているように思いました。

ですから、そういった意味で、甲乙つけがたい面がありますけれども、そういう日常生活への応用といたしますか、日常生活に役立てるという観点から見て、東京書籍のほうがすぐれているかなと思いました。2カ所だけ見て、それで決めるということではございませんけれども、全般的に見て、東京書籍のほうがすぐれているのではないかと思います。

○今野委員 調査委員会は全く東書と学研は同じですし、学校現場のほうの意見もほとんど変わらないということで、甲乙つけがたいといったことだろうと思えますけれども、審議委員会の意見では東書ということでございました。それを踏まえながら見させていただきましたけれども、随所に子どもがみずから書き込むような形式になっておりますので、主体的に授業を受けるというのに都合がいろいろになっているのではないかなと思いました。

それから、安全マップについても、少し踏み込んだ形で、ほかとは違って、つくり方のレベルまで踏み込んで提示されていますし、同じように、よりよいコミュニケーションのあり方ということで、人とのつながりの関係でしょうか。そういうところまで、従来の保健の授業の中では新しいという印象を持ちましたけれども、踏み込んだ内容になっている。指導の仕方もそれに伴って充実させていくような必要があるのかと思えますけれども、教科書としては、そういうところがほかと違ってすぐれているのではないかなという印象を持ちました。審議委員会のAということに同意いたしまして、東書が適当だと思います。

○羽原委員 ビジュアル的には学研のほうがいいのかなという感じで見ていました。それで実際にどうかと、この学校調査の迷いは非常によくわかるような気がしました。ただ、一つ

具体例で言うと、学研のほうは、健康管理上のネットの問題に触れている。しかし、東書のほうは、テレビ、ネット、スマホ、そういう開発されてくる電気遊具というようなものへの健康管理。僕はお酒とかたばこを先ほどこちよっと聞いたのは、その対比においてちょっと気になったので、飲酒とか、そういう時間がどう配分されているかということ伺ったわけですが、僕は、もっと身近な問題としては、そういう電気器具・遊具等の扱い方を、もっと保健の教科書では取り上げるべきではないかと。ちょうど自転車について、東書は非常にいいページをつくっていると思うのです。そのような形で、飲酒、薬物、喫煙というようなものよりもっとある意味では日常性が高いだけに、ネットなどの情報管理の部分ではなくて、健康管理の部分でもうちょっと取り上げたほうがいいのではないかなと思いました。ただ、僕が別に学研にどうしてもということではありません。どちらにももう一步という感じでのBかなと思ひまして、皆さんの選ばれた東書のほうで一向に構わないと思っております。

○白井委員長 それでは、皆さんの最終的御意見は一致しているようですので、最終確認をさせていただきます。

保健について、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として、東京書籍発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○白井委員長 それでは、そのように進めたいと思ひます。

以上で、本日の種目ごと質疑と採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを終了いたします。

本日の協議は終了いたしますが、事務局から何かありますか。

○木城教育調整課長 特にございません。

◎ 閉 会

○白井委員長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。長らくありがとうございました。

午後 4時14分閉会